

編集後記

めぐりめぐって秋がきた。サケが川に遡ってくる。

前年戦後最高を記録した十勝川には、どれぐらい回帰するだろうか、そしてオホーツク海はどうだろうか。うんと帰ってきて漁業者の願いを叶えてやってほしい。

秋がくるたび同じ思いにかられる。当然ながら技術者の一人として、過去の記録を引き出しては、自分なりの来游量を予想していたものである。

本誌に掲載できなかつたが、国立ふ化場から今秋のアキサケ来游量に関する予報が出された。

それによると全道で三九八万尾の来游が予想され、一九六三年度以降四年続きの豊漁となりそうで

ある。オホーツク海、エリモ以西海区は余り期待できそうもないが、日本海区は前年の二・五倍量、注目のエリモ以东、根室海区は、昨年には及ばないが豊漁を期待できるとのことである。

予報の精度については十分でないとしているが、莫大とも云える資料の蒐集から分析を行なつて発表にこぎつけたことは大きな前進である。

漁業を経営する場合、適確な予報は何よりの支えとなるが、今後は漁業者に信頼される精度の高い予報を、早期発表できる体制を確立するよう精進してゆきたい。

ふ化過程中に発生する卵膜軟化症に対しては、過マンガン酸加里液による消毒を行なつているが、ソ連での試験結果によると、タン

ニンが治療及び予防剤として大きな効果があると報告されている。すべてとはいわないが日常取扱つていることに、マンネリ化しているものが多い。随性で過ごすだけでなく、もう一度身近かなものから検討を加えてみる必要があると思う。

前号でイランのチョウザメについて、江ノ島水族館の広崎氏から紹介いただいたが、千葉県でシベリヤチョウザメを個人で飼育している方がいる。豪快と雄容を兼ねた泳ぎ振り、王者の風格をもつた習性について寄稿をいただきまして。

規格化された飼育池に、ギッシリ詰め込まれ、餌を撒くと吾れ先にと重なり合つて摂餌するニジマスやコイとは何と違うことか。:

「魚と卵」編集委員会

農林技官 小山田 博 技術吏員 外崎 久
農林技官 長沢 有 晃 技術吏員 寺尾 俊 郎

札幌市中の島 (TEL (83) 0111)

発行 北海道さけけますふ化場 場長 三原 健 夫
印刷 北海道立水産庁化場

中西写真製版印刷株式会社

昭和41年9月25日印刷

昭和41年9月30日発行

12
第12卷第5号

印刷

中西写真製版印刷株式会社